

調 査 研 究 結 果

種目	道 徳	発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名
観 点	教科書名等 項 目	232・廣あかつき	道徳 728 道徳 729 道徳 828 道徳 829 道徳 928 道徳 929	中学生の道徳 自分を見つめる 1 中学生の道徳ノート 自分を見つめる 1 中学生の道徳 自分を考える 2 中学生の道徳ノート 自分を考える 2 中学生の道徳 自分をのぼす 3 中学生の道徳ノート 自分をのぼす 3
取 扱 内 容	地域への興味関心	第 1 学年 江戸時代から続く和太鼓について扱い、自分の郷土について理解し、郷土の伝統行事や伝統文化について考える活動を取り上げている。 第 2 学年 東日本大震災の際の出来事を描いた「相馬野馬追の季節」を扱い、郷土の文化や伝統を守り、受け継いでいくことの意義について考える活動を取り上げている。 第 3 学年 東日本大震災を扱い、自分の郷土について理解し、郷土を愛し、その発展に寄与するためには何が大切なのか考える活動を取り上げている。		
	命の連続性	第 1 学年 生命とはどのようなものかや、この世に生を受けたことや今生きていることについて、どのように感じるかを考える活動を取り上げている。特に、いじめの問題については、いじめのない愛のある学級にするために、どのようなことが大切かを考える活動を取り上げている。 第 2 学年 自分自身の生命をどのように燃やし、輝かせたいかや生命の尊厳とは、どのようなことかを考える活動を取り上げている。特に、いじめの問題については、もし、いじめに気が付いたら、自分はどのようにするかを考える活動を取り上げている。 第 3 学年 生命の尊さやかけがえのなさについて、どのように考えるかや誰かのために生きるとは、どのようなことかを考える活動を取り上げている。特に、いじめの問題については、いじめをなくすために、どのような自分でありたいかを考える活動を取り上げている。		
	自己肯定感・自己有用感の醸成	第 1 学年 神津カンナ氏の作品「木箱の中の鉛筆たち」を扱い、自己の能力を伸ばし、高めていく向上心について考えを深める活動を取り上げている。 第 2 学年 「虎」に描かれた役者として生きる主人公を扱い、自己の能力を伸ばし、個性を輝かせる生き方について考える活動を取り上げている。 第 3 学年 元メジャーリーガー松井秀喜氏の生き方を扱い、自己の向上を目指し、能力を伸ばしていこうとする態度を養うには何が大切なのか考える活動を取り上げている。		
	生活習慣 (ゲーム・スマホ)	第 1 学年 SNSの危険性について扱い、ネット社会における人間関係の在り方やマナーについて考える活動を取り上げている。 第 2 学年 中学生のネット依存について扱い、情報機器との接し方について考える活動を取り上げている。 第 3 学年 ネット上の「情報」について扱い、有益である一方、大きな危険性もはらんでいることについて考える活動を取り上げている。		
	情報化への対応	第 1 学年 インターネットを扱い、利用する場合には、自主性や自律性、自由と責任を大切にしなければならないのは、なぜかを話し合う活動を取り上げている。 第 2 学年 SNSを扱い、情報機器に振り回されないためには、どのようなことを心がけるとよいかを話し合う活動を取り上げている。 第 3 学年 インターネットを扱い、その利用に際して、どのような責任が伴うかを話し合う活動を取り上げている。		
男女平等	第 1 学年 男女の人間関係について扱い、友情と信頼について話し合う活動を取り上げている。			

		第2学年 男女の関係について扱い、平等を重んじ、互いに敬愛の念をもち、信頼を築くことについて考える活動を取り上げている。 第3学年 男女の人間関係について扱い、互いの自律的な判断と尊重し合えるような敬愛の念に基づく信頼関係について考える活動を取り上げている。
	いじめ問題への対応	第1学年 いじめアンケートや「いじめ撲滅宣言」を扱い、正義と公正さを重んじ、公平な社会をつくるには何が必要か考えさせる活動を取り上げている。 第2学年 いじめの卑劣さについて扱い、正義と公平さを重んじる精神の大切さについて考える活動を取り上げている。 第3学年 いじめ問題を扱い、正義を重んじ、公正・公平な社会の形成に参画する態度と国際社会の発展に寄与する態度を養うためには何が大切か考える活動を取り上げている。
内容の構成・排列、分量等	教材	第1学年 35 (読み物 35) 第2学年 35 (読み物 35) 第3学年 35 (読み物 35)
	教材数	第1学年 6 (読み物 6) 第2学年 6 (読み物 6) 第3学年 6 (読み物 6)
	議論を行い自分との関わりで考察できる工夫	各学年に、問題の解決に向けて話し合うことができる教材を配置し、様々な道徳上の問題や課題を多面的・多角的に考え、主体的に判断し実行し、よりよく生きていくための資質・能力が養われるように工夫されている。
使用上の配慮等	家庭との架け橋となる工夫	各学年に、家庭との関りを促す教材や、別冊に家族との交流を促す記述欄を配置し、家庭との共通理解を深めることができるようになっている。
	地域の人々との連携や地域の行事との関連を図った学習活動の充実	各学年に、地域との交流を促す教材を配置し、地域社会との共通理解を深めることができるようになっている。
	自らの成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりする工夫	自らを振り返るための工夫については、各学年の別冊に、心に残った教材やその理由を記入する「心に残っている授業の記録」を配置し、自らの道徳的成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりすることができるようになっている。
	教材ごとのねらいやテーマの掲載状況	学習の目当てと問いで構成された「学習の手がかり」によって、生徒は明確な課題をもって主体的に学習に取り組むことができるようになっている。
	教材ごとの展開における発問の掲載状況	「考えを広める・深める」では、自分との関わりで考えたり、自己の体験で想起したりして考える問い、物事を多面的・多角的に捉えるきっかけをつくる問い、道徳的価値に関する思考を促す問いなど、生徒が「さらに考えたいくなる」問いを配し、より充実した学習ができるよう構成されている。
その他	その他の特色	